

【成果を出す組織を作るマネジメント】シリーズ

溢れる情報の“真偽”を見分ける3大原則

強い組織、強い現場を作るための、やさしい現代マネジメント！

【情報過多の中での経営判断】

一般情報のみならず、社外の関係先や、社内の“ほうれんそう（報告・連絡・相談）”等を加えると、経営をとりまく“情報”は、ある意味で“うんざりする”程多いかも知れません。かつて情報こそが経営資源の重大要素だと言われていた頃とは、やや状況が違うのです。

【本当かどうかの吟味の暇さえない？】

なぜなら、得られた情報が“本当”かどうか、吟味する暇もなく、判断を迫られることさえあり得るからです。

経営にもたらされる情報には、故意の“嘘”もあり得ますが、もっと深刻なものがあります。それは、当事者の“勘違い”や“理解不足”から生まれる“誤報”です。

【情報は伝達主体の技量でも変容しがち！】

むしろ、現実には、情報は“それを伝える人や機関”の技能や見識で、想像以上に曲げられてしまうものなのかも知れません。

“色眼鏡”で見ると、全ての色が違って見えるのと同じです。

【清濁合わさった“情報大河”の活用法】

そんな“清濁が合わさった”情報大河の中で、確かな経営判断の基盤を守るには、何より“情報の清濁を見極める”目が重要になります。

それはもちろん、誤情報に振り回されないためであると同時に、重要な情報を見失わないためでもあるのです。

【情報の有用性を見極める3つの原則】

しかし、情報の正誤ばかりではなく、一つの情報から“信用できる部分”を取り出す方法を、容易に見出すことができるのでしょうか。

容易かどうかを別にすれば、“具体的な指針がある”と指摘する経営者がおられます。自社の従業員との対話の中で、3つの情報判断原則を見出したと言われるのです。

【マネジメント・レポートを購読しませんか？】

そこで、その“3つの原則”の内容ばかりではなく、その原則を見出した過程をも、事例としてまとめたマネジメント・レポートをご用意しました。**有料定期購読を希望される方は、ご一報ください。レポートを差し上げています。**



情報流通が益々活発になる中で、最近では、情報が意外な“誤解”を生み出す危険が叫ばれ始めました。時には、それがフェイク・ニュース（虚偽または誤解報道）として、社会的な問題になる場合もあるからです。

一方、ビジネスは、社外でも社内でも、様々な情報を吟味して経営判断に至ることで、まさに情報の上に成り立つと言えるかも知れません。

そうだとしたら、“情報の真偽の見分け方”は、益々重要になって来ていると言えそうです。そこで、その判定視点の例を、ご紹介致します。

中堅中小企業の皆様に、現代的な“人”マネジメントの視点から、重要なニュースやノウハウをお届けする月例『経営さぷりめんとニュース』に、ご意見やご感想をお寄せください！

行政書士・社会保険労務士へんみ事務所

TEL : 022-292-2351

FAX : 022-292-2352

URL : <http://www.henmi-adm.jp/>

★ 私どもは、“ヒト”に関わる重要課題の提言を通じて、皆様方の経営をご支援申し上げます！ ★